

高砂地区震災復興まちづくり訓練 第1回

～地域協働の重要性を学び、
被災後の『住まい』の復興を考える～

令和5年10月7日（土）14:00～16:00

開会

- (1) ガイダンスの振り返り
- (2) 葛飾区の被害想定と地域協働復興を知る
- (3) 高砂地区の特性と訓練用被害想定
- (4) 被災後の『住まい』の復興を考える
- (5) 発表
- (6) 解説

閉会

復興まちづくり訓練の流れ

8/19(土)ガイダンス

復興について学ぶ

- 区の防災対策や訓練の概要をご説明します。
- 被災地での課題を理解し、地域協働復興・事前復興の重要性を学びます。
- 特別講演により「地域のまとまりが、早期の復興を促す～阪神・淡路大震災からの学び～」について、学びます。



10/7(土) 第1回

地域協働の重要性を学び、
被災後の『住まい』の
復興を考える

- 葛飾区の被害想定と地域協働復興の流れ、体制等について学びます。
- 被災者になりきって、生活再建や仮住まいの確保について、話し合います。

11/25(土) 第2回

被災後の『都市』の
復興を考える

- 被害が予想される箇所や復興資源について、事前に区が点検した結果をもとに、高砂地区の復興で重要となる課題や資源を話し合います。
- 被災者になりきって、都市の復興や復興の方針について、話し合います。

1/27(土) 第3回

「高砂地区震災復興の進め方」
をまとめよう

- 訓練のまとめとして「高砂地区震災復興の進め方」と「復興まちづくり計画」について、話し合います。
- 普段から、地域や行政等で取り組むまちづくりについて話し合います。

(1) ガイダンスの振り返り

(2) 葛飾区の被害想定と 地域協働復興を知る

(1) 葛飾区における震災被害の想定(都心南部直下地震)

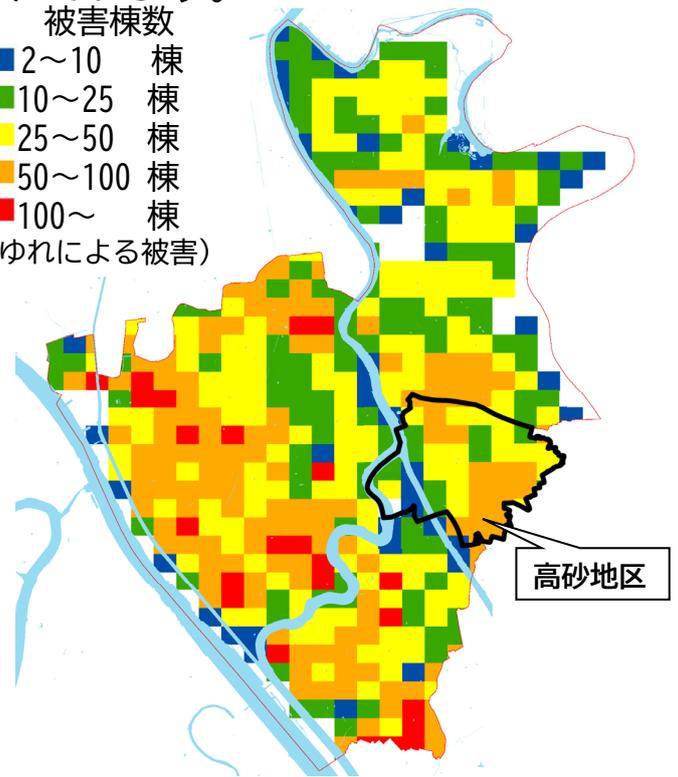
東京都が令和4年に公表した「首都直下地震等による東京の被害想定」では、葛飾区にも大きな被害が出るのが想定されています。

◆冬の夕方18時 風速8m/sの場合

| | 平成24年公表 | 令和4年公表 |
|-------|---------------------|---------------------|
| 想定地震 | 東京湾北部地震 | 都心南部直下地震 |
| 規模 | M7.3 | |
| 建物の全壊 | 7,446棟 (7.0%) | 4,589棟 (4.3%) |
| 火災で焼失 | 11,114棟 (10.4%) | 5,373棟 (5.1%) |
| 死者 | 500人 (0.1%) | 283人 (0.1%) |
| 避難者数 | 200,970人 (45.4%) | 169,051人 (37.3%) |

()内：区内の建物棟数に対する割合、
または、区の人口に対する割合
※焼失棟数は倒壊棟数を含めた数値

被害棟数
 ■ 2～10 棟
 ■ 10～25 棟
 ■ 25～50 棟
 ■ 50～100 棟
 ■ 100～ 棟
 (ゆれによる被害)



都心南部直下地震における全・半壊被害棟数メッシュ図
【令和4年公表】

(1) 葛飾区における震災被害の想定(多摩東部直下地震)

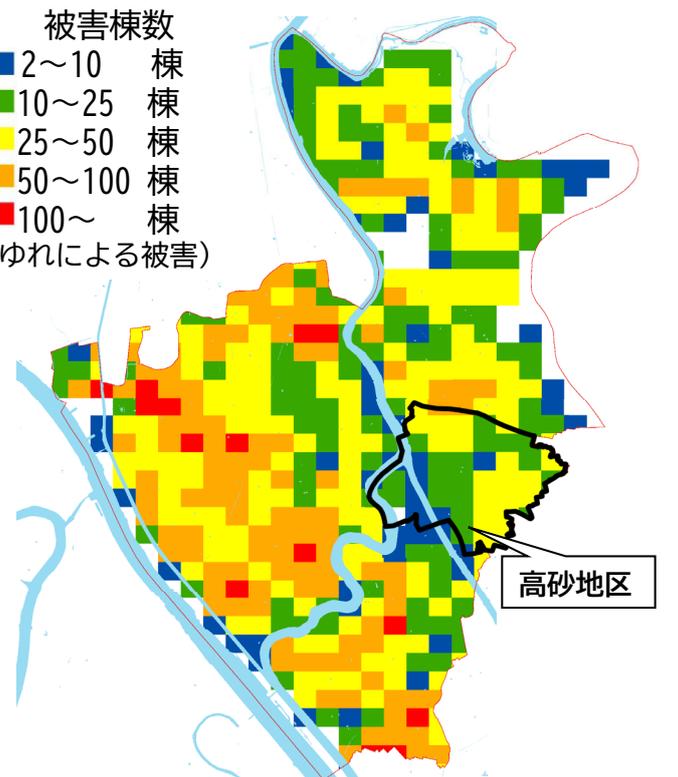
都心南部直下地震に加えて、多摩東部直下地震においても、葛飾区に大きな被害が出るのが想定されています。

◆冬の夕方18時 風速8m/sの場合

| | 平成24年公表 | 令和4年公表 |
|-------|---------------------|---------------------|
| 想定地震 | 多摩直下地震 | 多摩東部直下地震 |
| 規模 | M7.3 | |
| 建物の全壊 | 2,500棟 (2.3%) | 3,607棟 (3.4%) |
| 火災で焼失 | 933棟 (0.9%) | 3,040棟 (2.9%) |
| 死者 | 114人 (0.03%) | 198人 (0.04%) |
| 避難者数 | 123,639人 (27.9%) | 145,561人 (32.1%) |

()内：区内の建物棟数に対する割合、
または、区の人口に対する割合
※焼失棟数は倒壊棟数を含めた数値

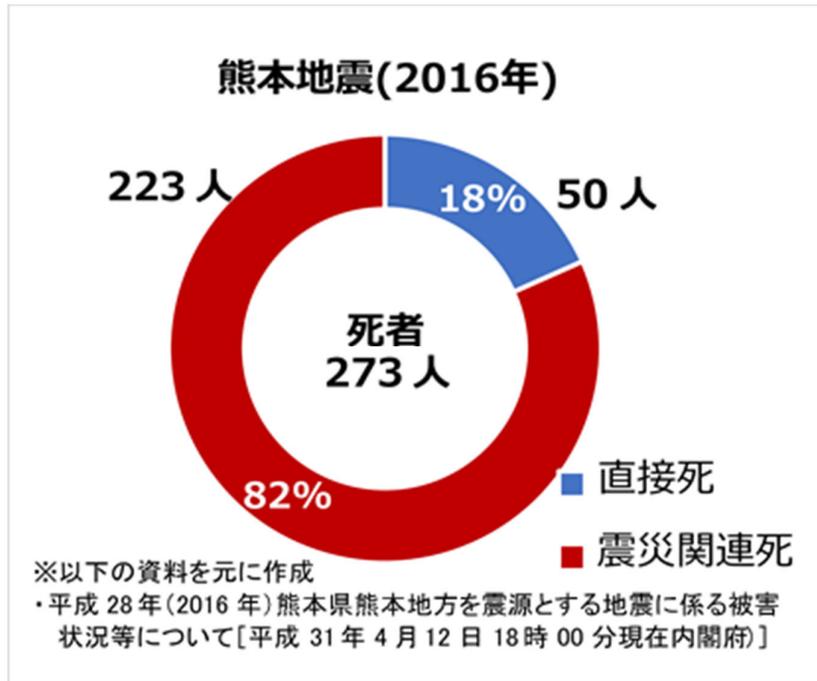
被害棟数
 ■ 2～10 棟
 ■ 10～25 棟
 ■ 25～50 棟
 ■ 50～100 棟
 ■ 100～ 棟
 (ゆれによる被害)



多摩東部直下地震における全・半壊被害棟数メッシュ図
【令和4年公表】

■想定される間接被害

震災被害は直接被害ではありません。
熊本地震では地震の揺れ等による直接死に対し、その後の避難生活などにおいて亡くなる「震災関連死」が圧倒的に多くなっています。



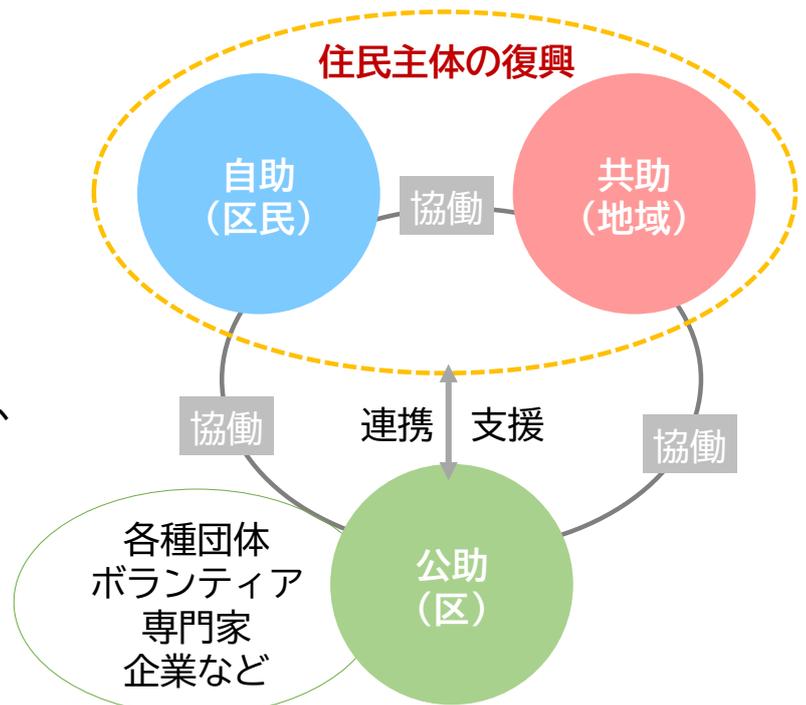
このような間接被害を防ぐため、速やかな復興が必要です。

(2) 復興における自助・共助・公助

復興を進めるためには、まず被災者である区民自らによる取組が基本となります。(自助)

しかし、被害が大きくなるにつれて、個人の力では解決が困難な様々な課題が生じます。こうした課題に対処し復興を進める上では、地域が持っている力を生かすことが必要です。(共助)

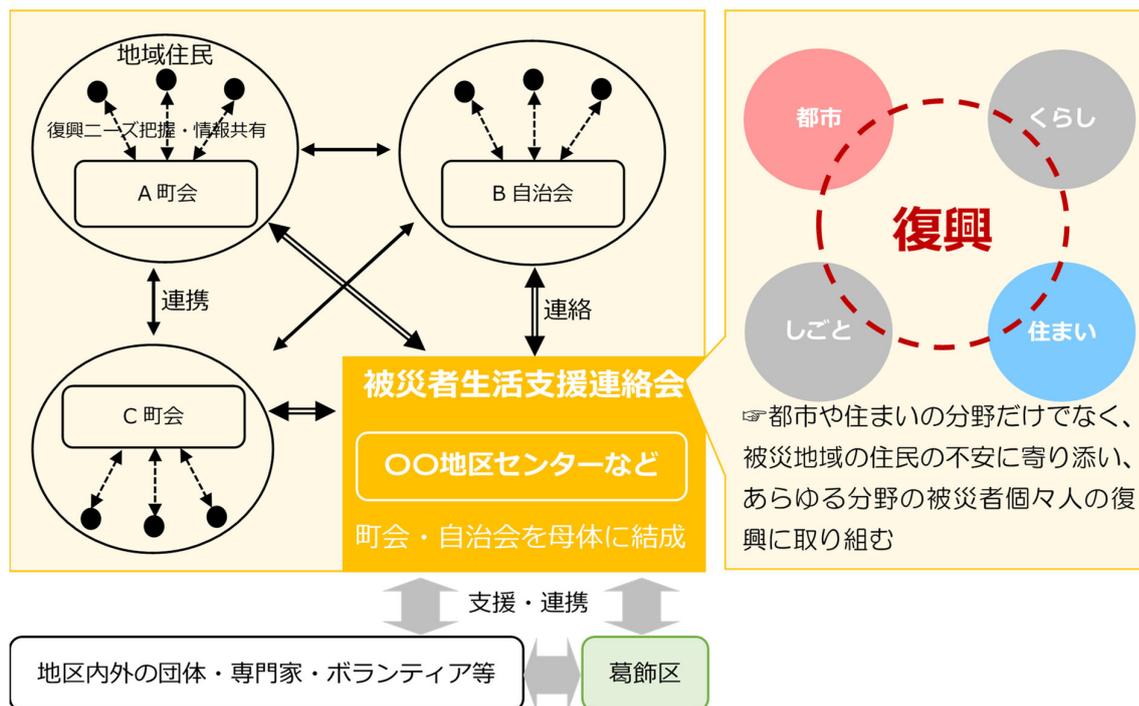
区は、これらの自助・共助に基づく住民主体の復興を地区内外の団体、専門家などと連携して支援します。(公助)



葛飾区では、自助・共助・公助が、責任をもってそれぞれの役割を果たし、連携を強化することで、震災からの地域協働復興を目指します。

(3) 葛飾区における地域協働復興の仕組み

地域協働復興は、日頃からのコミュニティを中心に進められます。



葛飾区では各町会・自治会が相互に被災生活に関するさまざまな情報を共有し、話し合いを行う会を「被災者生活支援連絡会」と呼び、あらゆる分野の復興に向けて区などと連携することを想定しています。

(4) 復旧と復興の違い

都市と住まいの復興では、ただ震災前の状態に戻す復旧だけではなく、次の災害で同じ被害を出さないよう、より災害に強いまちや建物に造りなおすことが大切です。

復旧とは…

道路や電気・ガス・水道等の生活に不可欠なライフラインが被害を受けた場合、生活できるように元の状態に戻すことをいいます。

復興とは…

「安全性の向上」「生活環境の向上」「産業の高度化や地域振興」など、被災前に比べて、生活のための環境をより良いものにしていくことをいいます。

被災直後



JR新長田駅前 (1995.1.19)
写真提供：神戸市

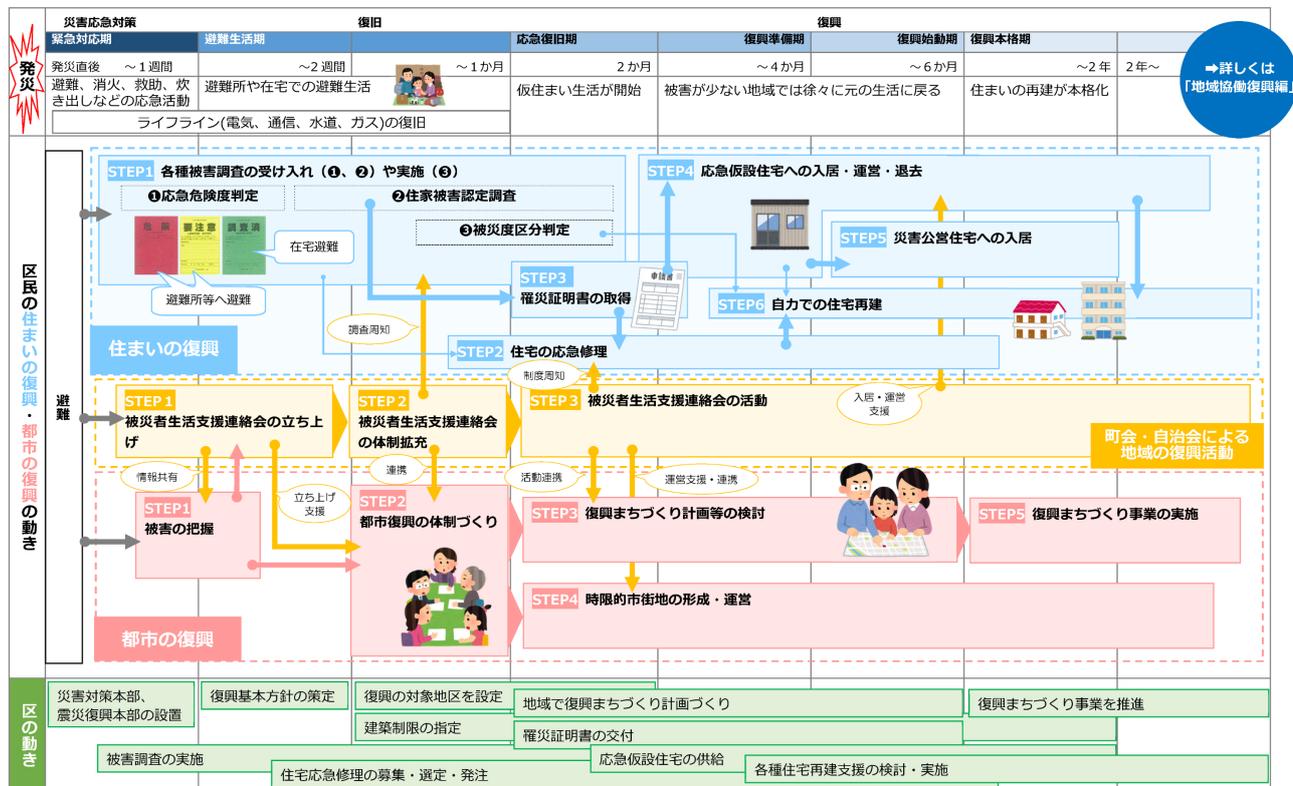
復興後



JR新長田駅前 (2006) /写真提供：神戸市

復興の流れ(住まい・都市) ※資料4テキストの3、4ページをご覧ください

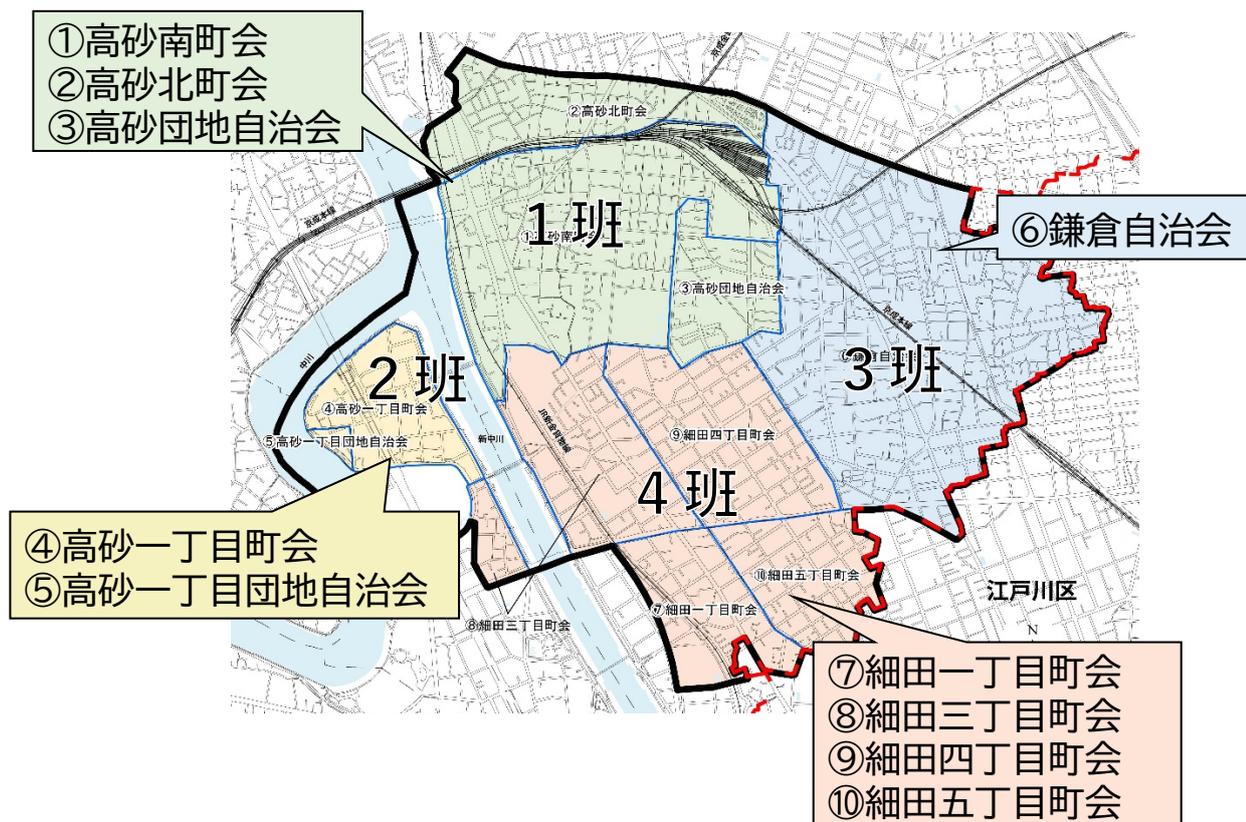
被災直後に避難や救助、消火活動などの緊急対応が行われたのち、避難生活や復旧活動が展開されます。被害が大きい場合には、その後の「まち」や「生活」の復興に最低でも5～10年かかると考えられます。



(3) 高砂地区の特性と 訓練用被害想定

班分け

今回は、以下の4班に分かれて、グループワークを実施します。



高砂地区の特性

■歴史〈地名の由来〉

葛飾区史より引用

【高砂】

- ・もともと「曲金(まがりかね)」という室町時代の資料にも出てくる古い地名で呼ばれていました。
- ・明治時代になると、地元の人から読みにくいなどといわれ、1932年に葛飾区が誕生したときに、曲金村にあった一番縁起の良い地名を取り「高砂」としました。
- ・なお、駅の名前は地名より早く、1913年に変更されています。



大正時代の京成高砂駅
(1914〔大正3〕年)

【鎌倉】

- ・鎌倉には、約600年前の室町時代には人が暮らしていたと考えられています。
- ・その後、江戸時代に改めて農地として開発され鎌倉という地名になりました。
- ・江戸時代の書物には、鎌倉という地名になった理由は、現在の神奈川県鎌倉市の辺りに住んでいた源右衛門という人がこの地を開発したからだと書かれています。



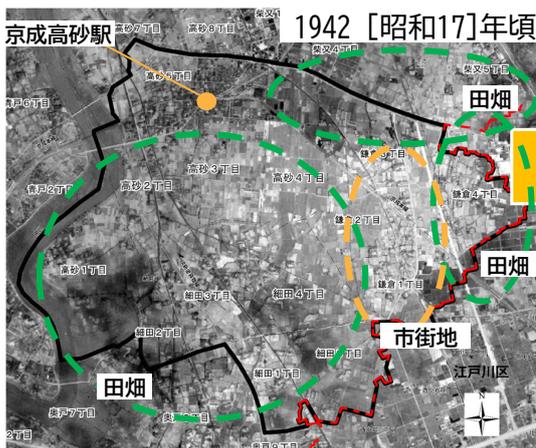
上空から見た高砂橋(昭和初期)

【細田】

- ・鎌倉同様、室町時代には人が暮らし、江戸時代に改めて農地として開発されました。
- ・なぜ細田という地名になったのかは、はっきりとわかりません。

■市街地の変遷

地理院地図(電子国土Web)より作成



- ・1942〔昭和17〕年頃まで田畑であった土地に徐々に市街地が形成されていきました。
- ・新中川が1963〔昭和38〕年に竣工し、治水の安全性が向上しました。



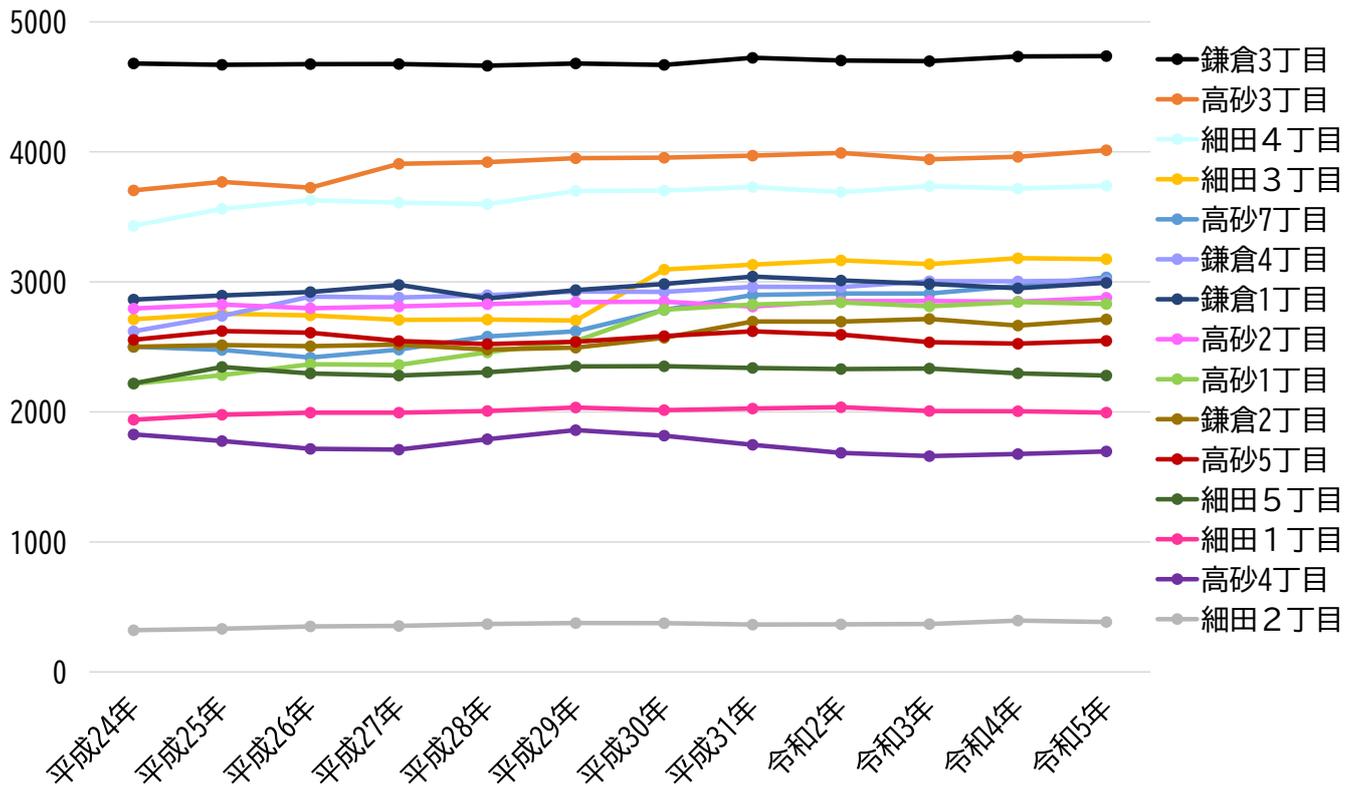
- ・市街地化が加速し都営高砂団地が1969〔昭和44〕年に竣工しました。



- ・1991〔平成3〕年に北総線が開通しました。
- ・都営高砂団地の老朽化に伴い、2008〔平成20〕年から都営高砂団地の建替えがはじまり、大規模な土地利用転換が行われています。

■人口の推移

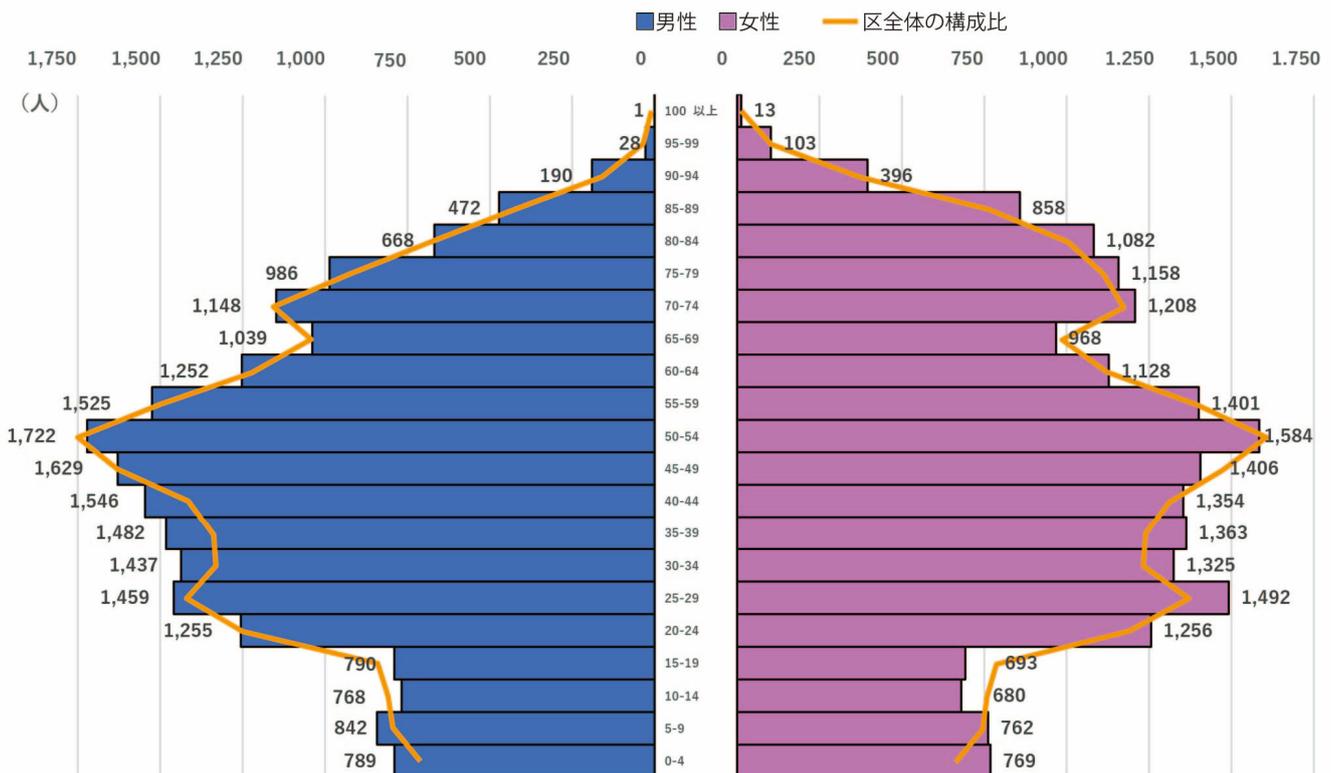
「住民基本台帳/葛飾区(各年6月1日)」より作成



人口は、地区全体（現状：約4.2万人）で見ると微増傾向にあり、各町丁目では微増もしくは横ばいの傾向にあります。

■世代別人口

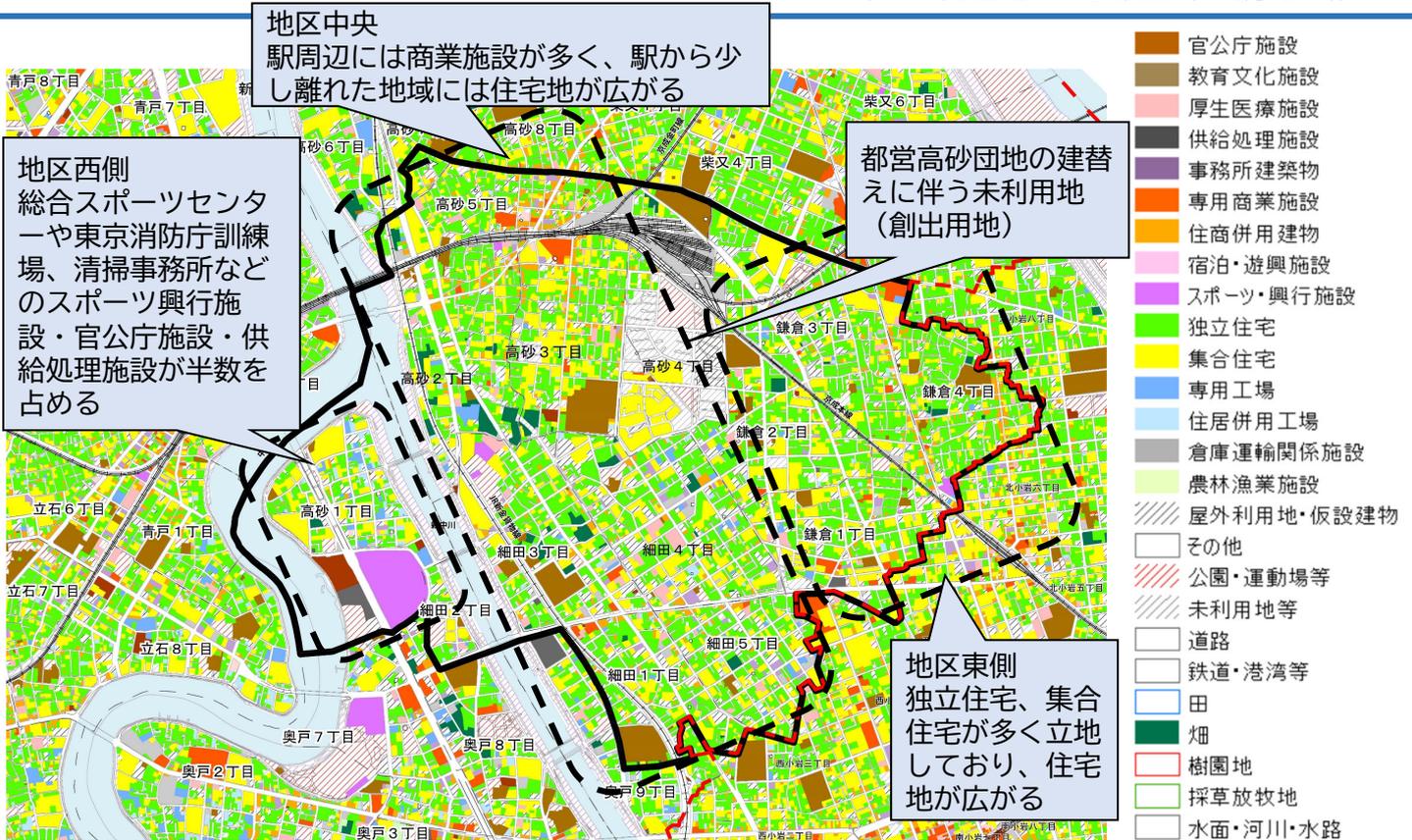
「住民基本台帳葛飾区(令和5年6月1日)」より作成



年代別では25-29、50～54歳が多く、高齢化率は24.6%と区全体（24.3%）よりもやや高くなっています。

■土地利用の現況

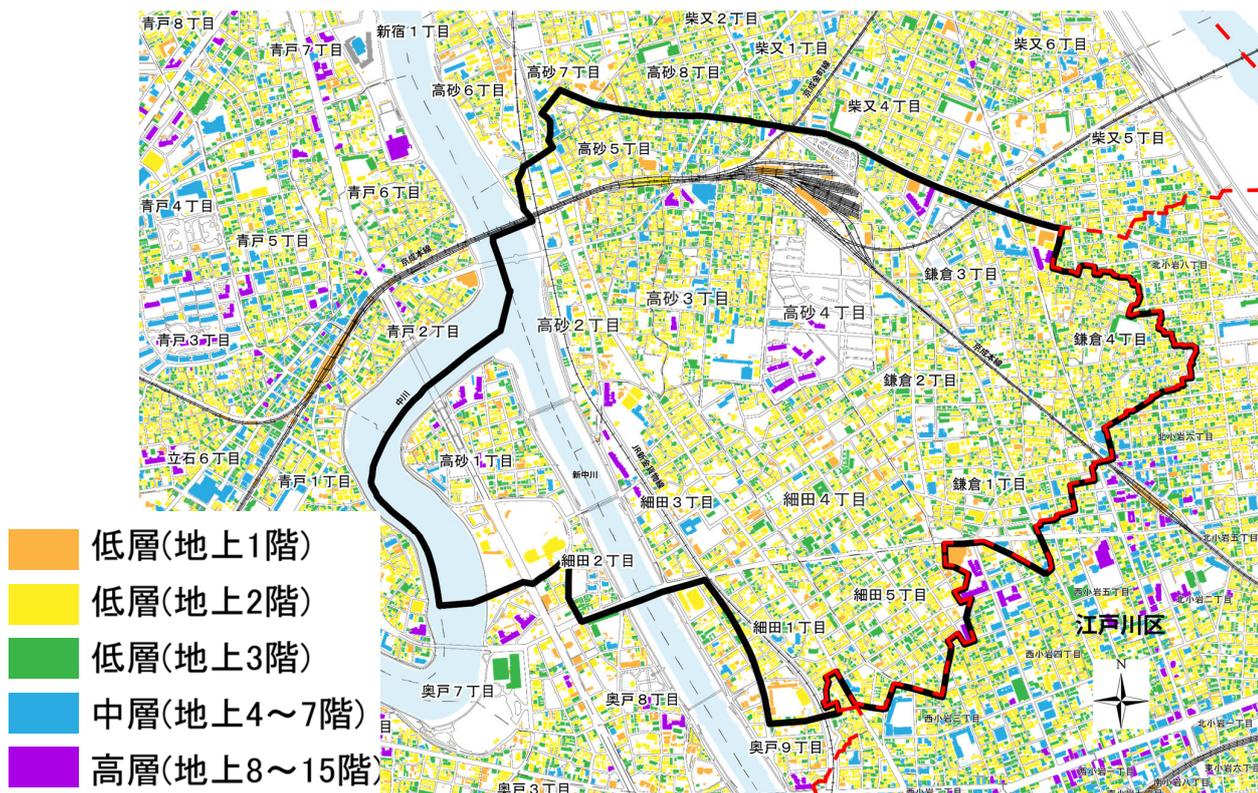
「令和3年度土地利用現況調査/東京都」より作成



地区全体では、独立住宅が25.5%、集合住宅が15.3%分布しています。

■建物の現状（階数）

「令和3年度土地利用現況調査/東京都」より作成

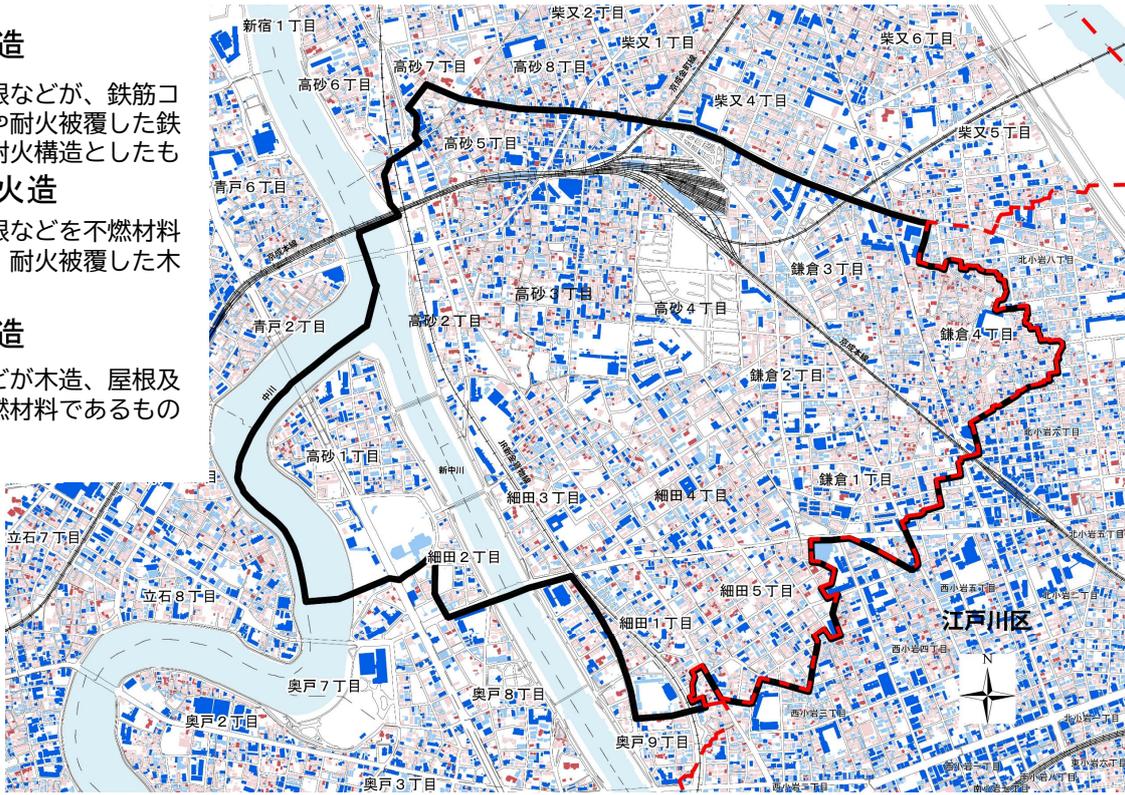


低層住宅が98.0%を占めています。中高層住宅は、地区中央の都営住宅、京成線沿い・河川沿いに点在しています。

■建物の現状（構造）

「令和3年度土地利用現況調査/東京都」より作成

- 耐火造**
柱、壁、屋根などが、鉄筋コンクリートや耐火被覆した鉄骨造などの耐火構造としたもの
- 準耐火造**
柱、壁、屋根などを不燃材料としたもの、耐火被覆した木造など
- 防火造**
柱、はりなどが木造、屋根及び外壁が不燃材料であるもの
- 木造**



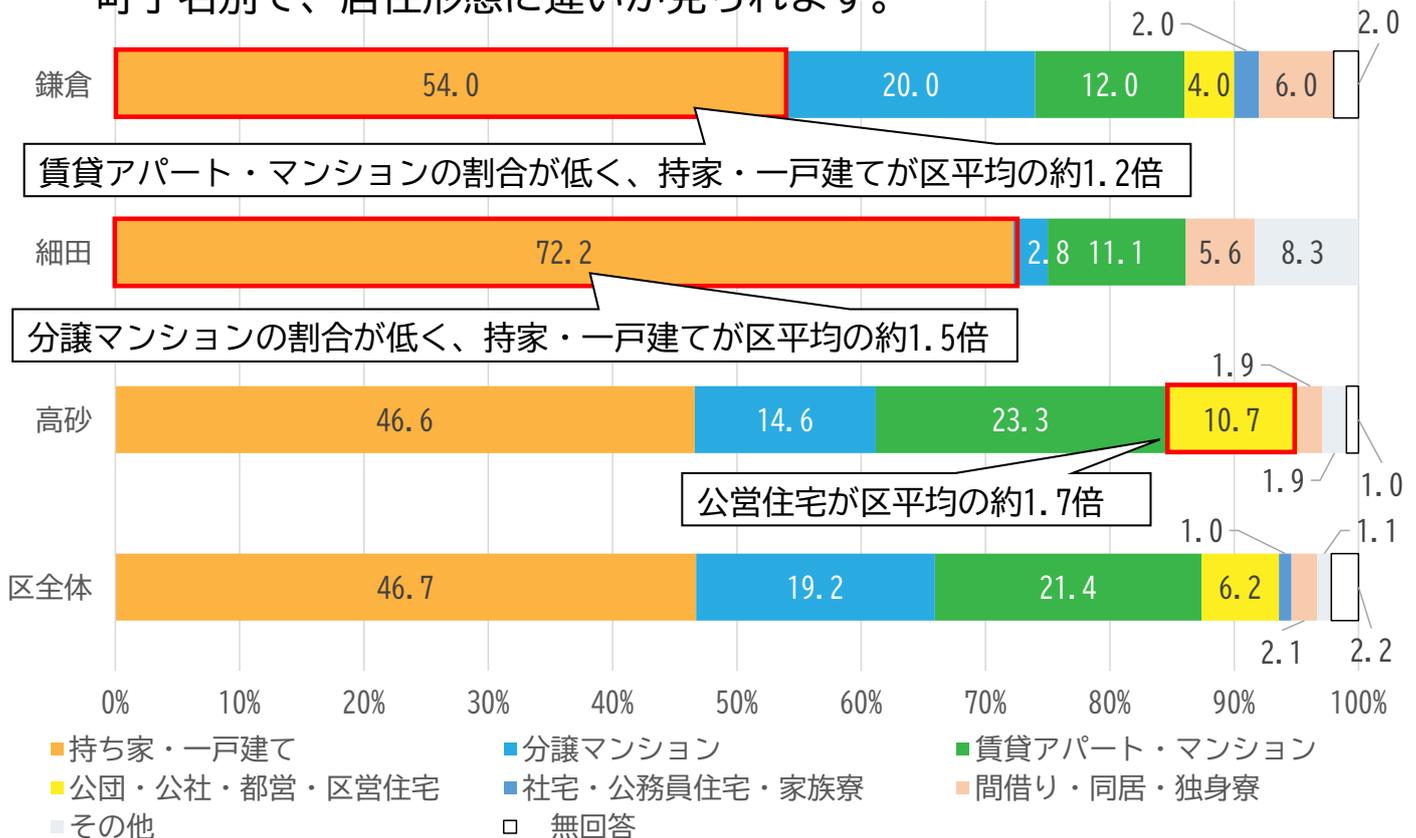
地区内の建物の約6割が防火造もしくは木造です。

■居住形態（町丁名別）

「令和4年度政策・施策マーケティング調査」より作成

参考

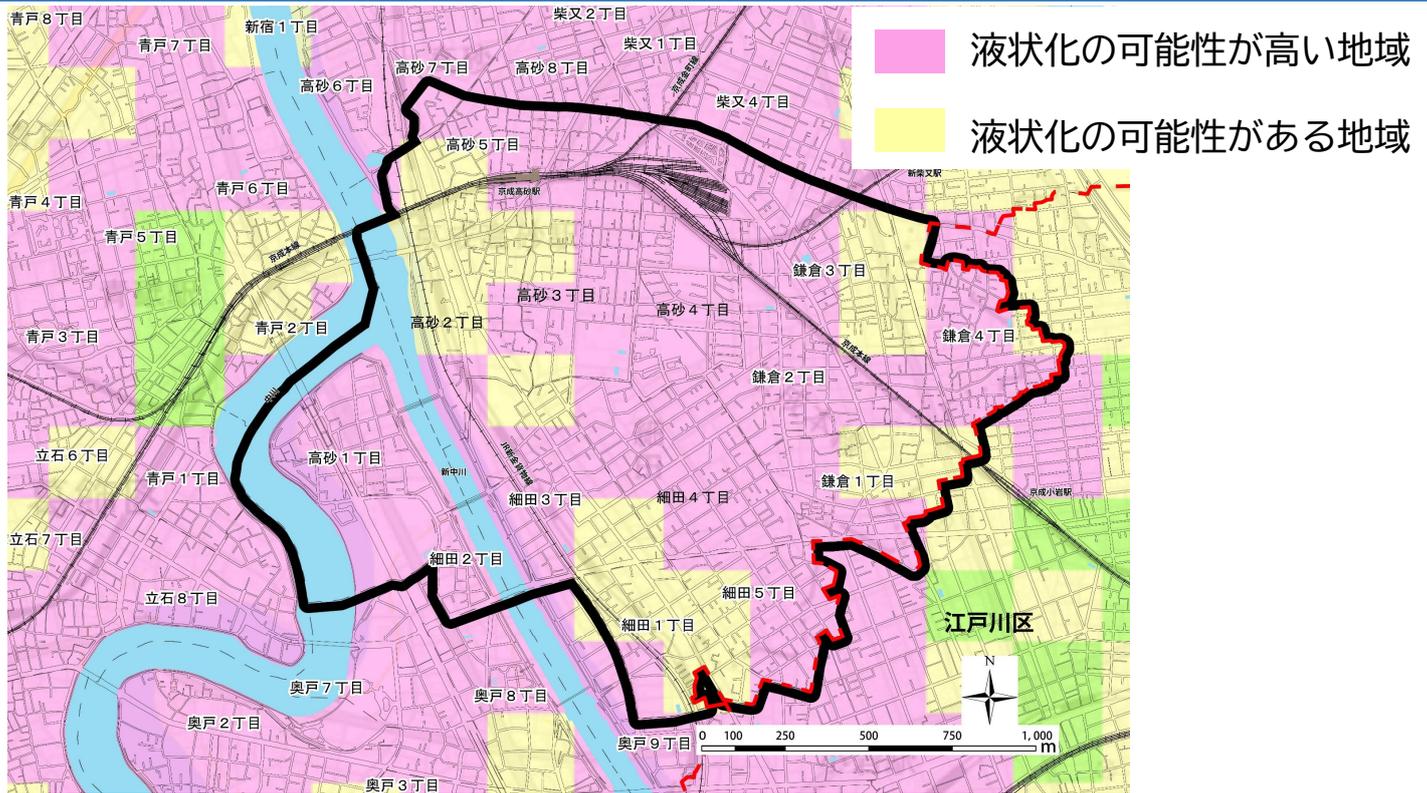
町丁名別で、居住形態に違いが見られます。



※区内に居住する満18歳以上の男女4000人を無作為抽出（回収数1781）

液状化被害想定

「東京の液状化予測図 令和3年度改訂版/東京都」より作成



液状化の可能性が高い地域が地区の半分以上を占め、液状化リスクが高いといえます。

地震に関する地域危険度測定調査（第9回）/東京都



都内の市街化区域の5,192町丁目について、各地域における地震に関する危険性を推定。

- 建物倒壊危険度（建物倒壊の危険性）
- 火災危険度（火災の発生による延焼の危険性）
- 総合危険度（上記2指標に災害時活動困難係数を加味して総合化したもの）

なお、地域危険度はそれぞれの危険度について、町丁目ごとの危険性の度合いを5つのランクに分けて、以下のように相対的に評価しています。

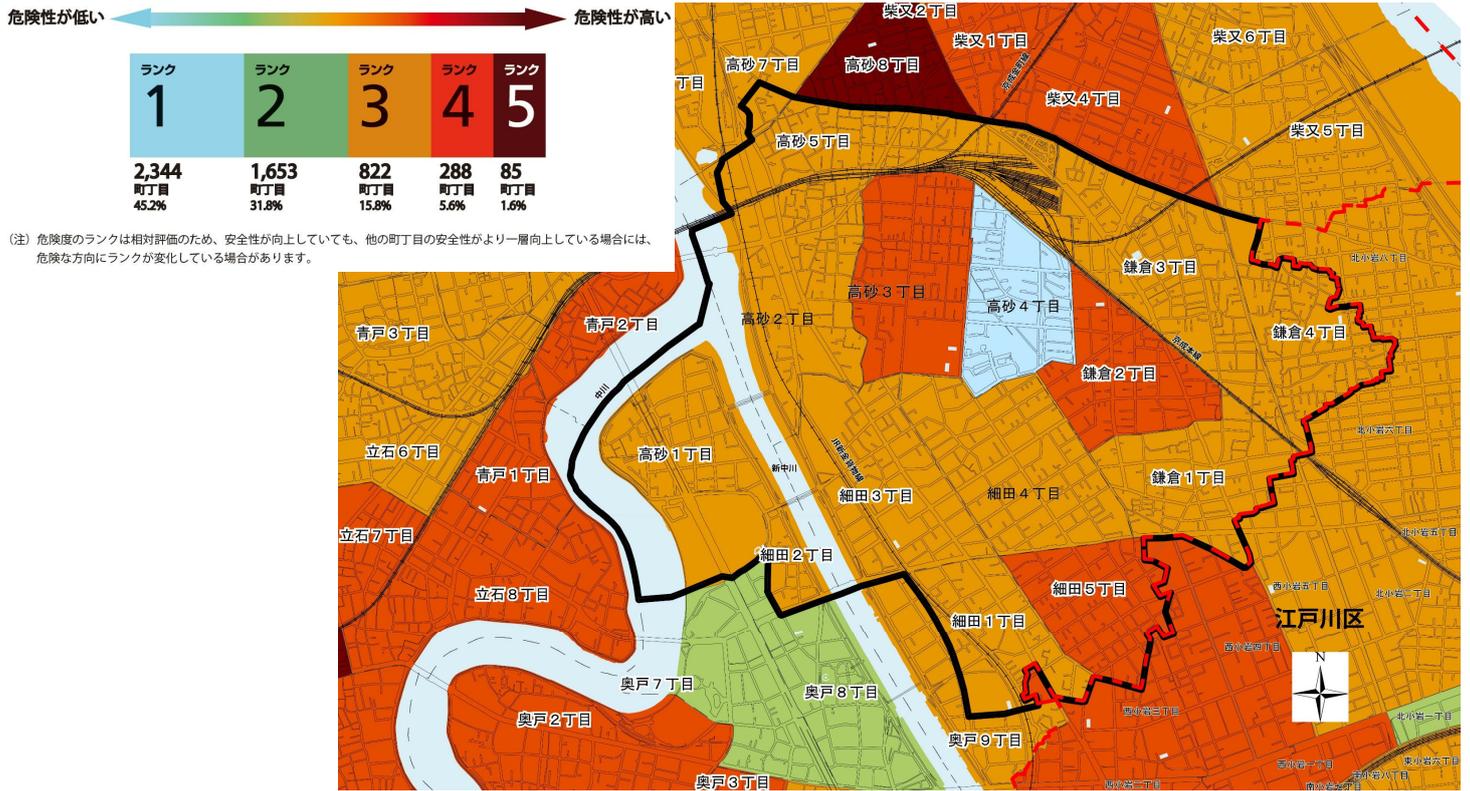
危険性が低い ← → 危険性が高い

| ランク | ランク | ランク | ランク | ランク |
|-----------------------|-----------------------|---------------------|--------------------|-------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2,344 町丁目 45.2% | 1,653 町丁目 31.8% | 822 町丁目 15.8% | 288 町丁目 5.6% | 85 町丁目 1.6% |

（注）危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がより一層向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。

■地域危険度（倒壊）

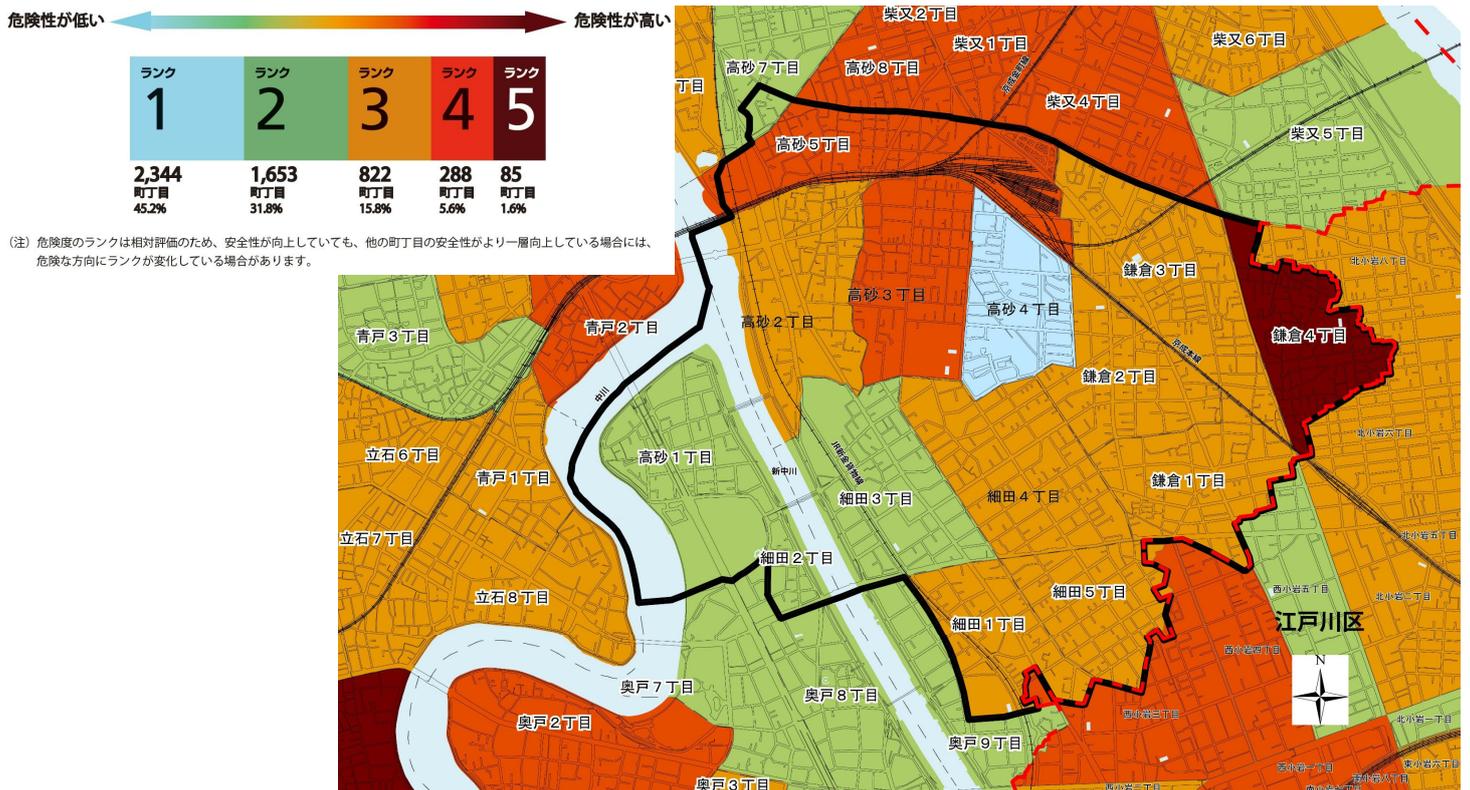
「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）/東京都」より作成



高砂3丁目、鎌倉2丁目、細田5丁目で地域危険度4となっています。

■地域危険度（火災）

「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）/東京都」より作成



鎌倉4丁目で地域危険度5、高砂3・5丁目で地域危険度4となっています。

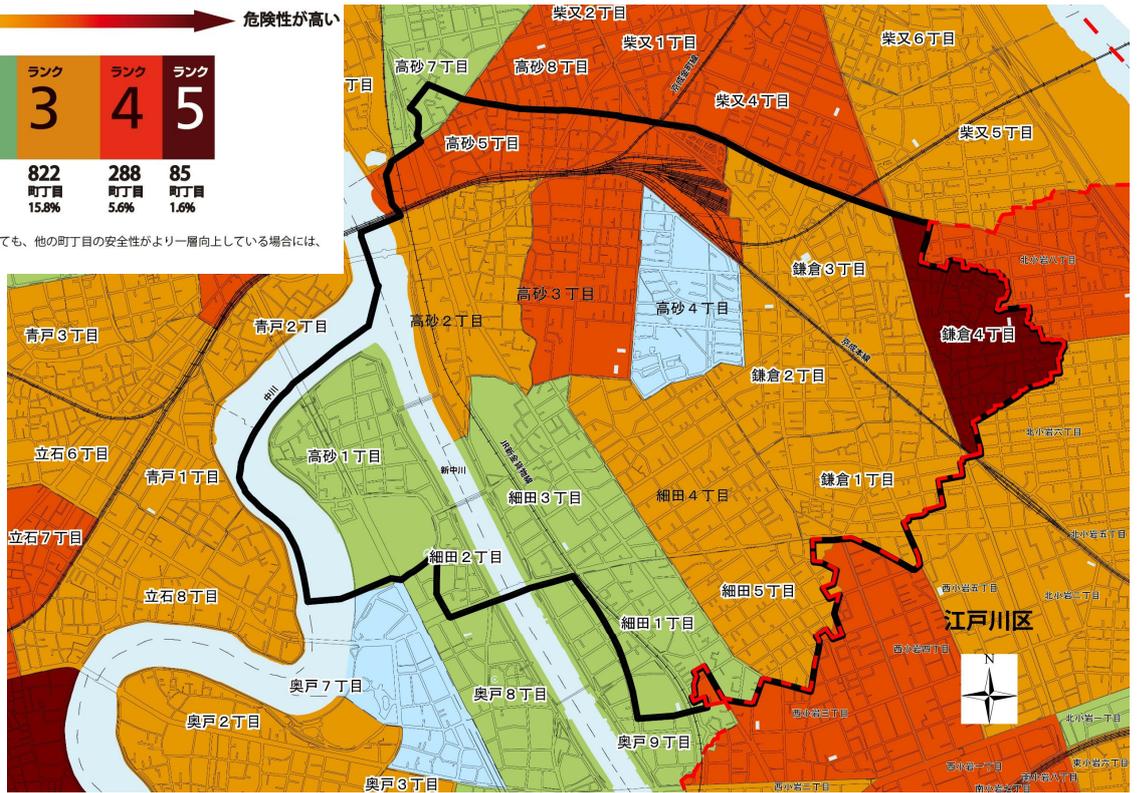
■地域危険度（総合）

「地震に関する地域危険度測定調査（第9回）/東京都」より作成

危険性が低い ← → 危険性が高い

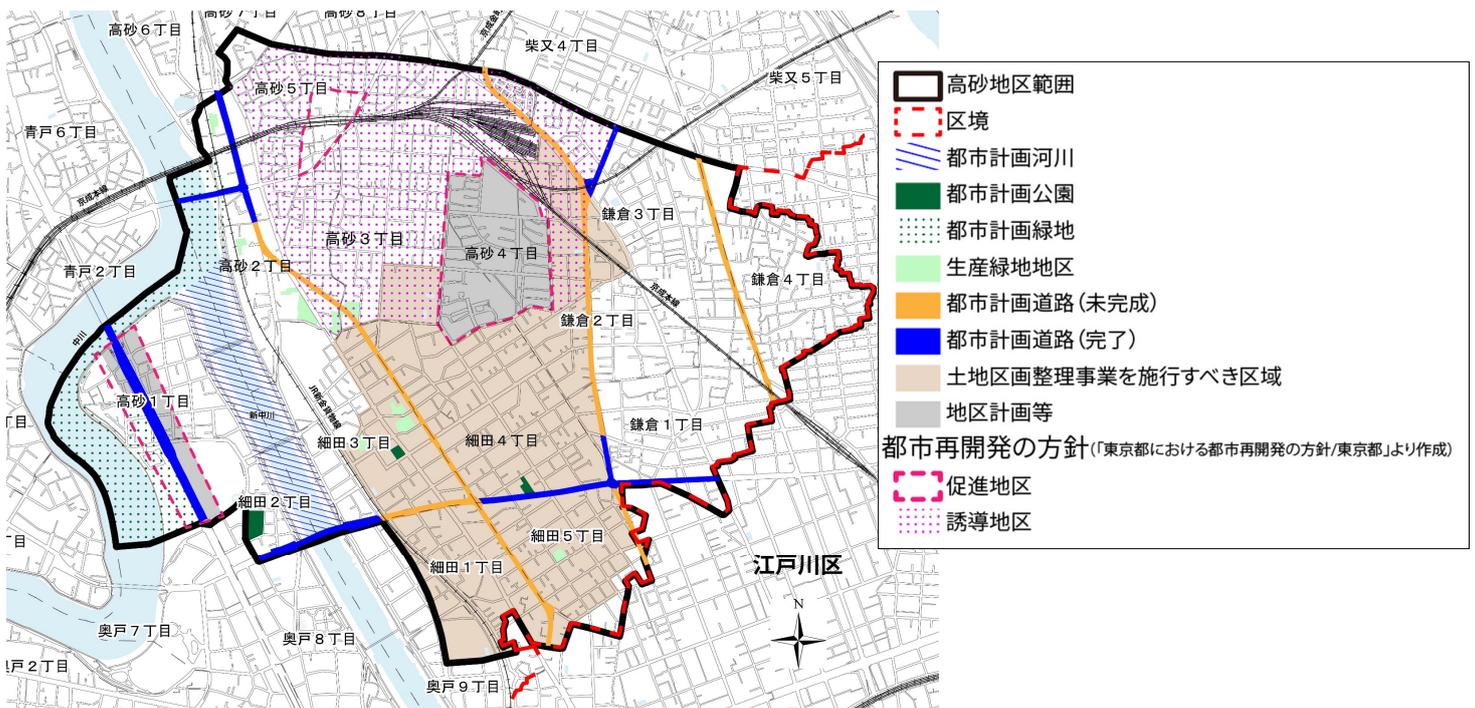
| ランク | ランク | ランク | ランク | ランク |
|-----------------------|-----------------------|---------------------|--------------------|-------------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2,344 町丁目 45.2% | 1,653 町丁目 31.8% | 822 町丁目 15.8% | 288 町丁目 5.6% | 85 町丁目 1.6% |

(注) 危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がより一層向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。



鎌倉4丁目で地域危険度5、高砂3・5丁目で地域危険度4となっています。

■都市計画の位置づけ

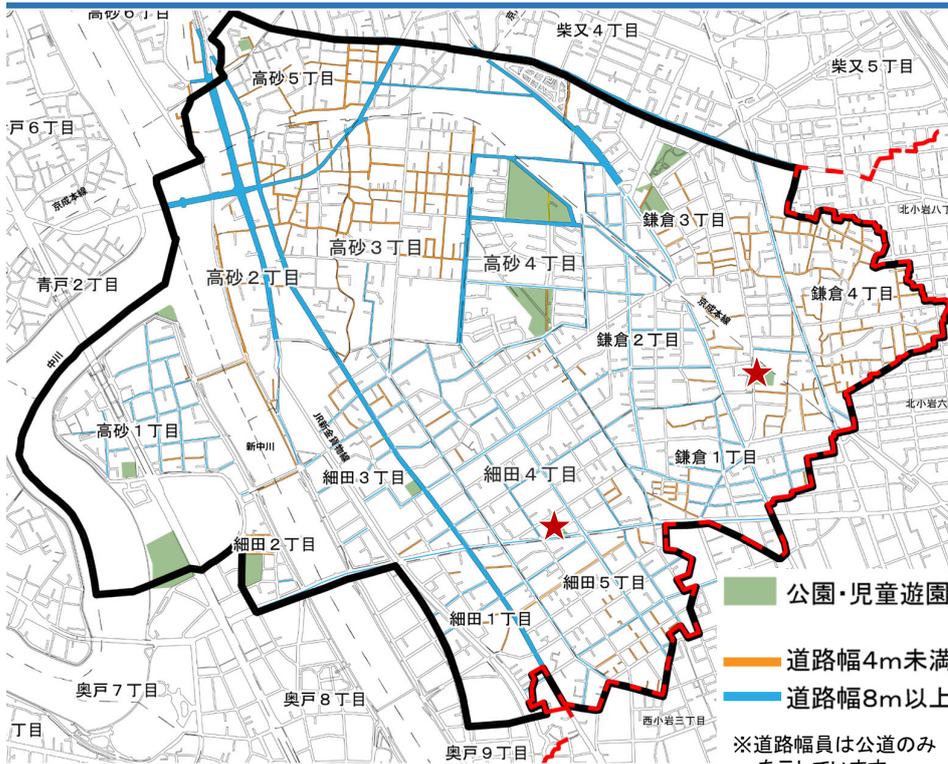


高砂1～5丁目の一部では、都市再開発の方針で「再開発促進地区」「誘導地区」に指定されています。

また、都市計画道路については、未完成の路線が多く残っています。

そのほか、地区西側の河川沿いには都市計画緑地や都市計画公園が分布し、生産緑地地区等の農地が残っています。

■公園・児童遊園と道路現況



公園・児童遊園が28か所あります。
 細田公園、まんだら公園は防災活動拠点として整備されています。

◆公園・児童遊園

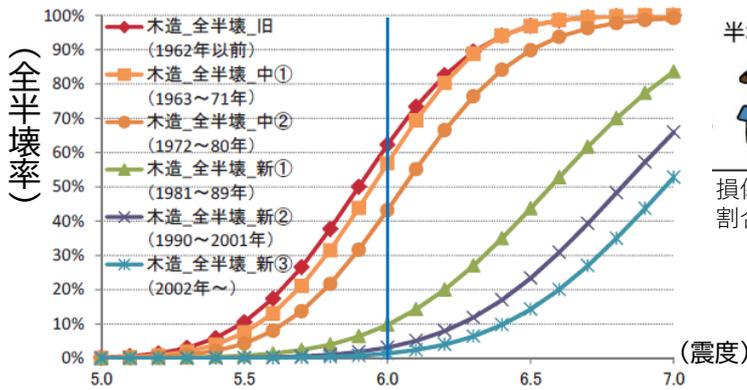
※1 面積は、小数点以下第2位を四捨五入
 ※2 ★は、防災活動拠点

| 名称 | 面積 (m ²) |
|-------------|----------------------|
| 高砂南公園 | 3,495.1 |
| 高砂北公園 | 16,295.8 |
| 新中川通水記念公園 | 1,285.5 |
| 諏訪野公園 | 1,524.0 |
| 三和公園 | 3,943.0 |
| 住吉公園 | 997.4 |
| 高砂やちよ公園 | 1,025.7 |
| 鎌倉公園 | 8,658.0 |
| 細田公園★ | 1,016.8 |
| 高砂七丁目公園 | 2,320.7 |
| 細田三丁目せせらぎ公園 | 1,020.0 |
| まんだら公園★ | 2,224.1 |
| 高砂児童遊園 | 264.5 |
| 細田町児童遊園 | 379.6 |
| 細田四丁目児童遊園 | 499.2 |
| 住吉児童遊園 | 604.9 |
| 細田一丁目児童遊園 | 798.0 |
| 鎌倉二丁目児童遊園 | 327.0 |
| 高砂宮前児童遊園 | 497.3 |
| 細田東児童遊園 | 331.6 |
| 高砂南児童遊園 | 348.3 |
| 鎌倉東児童遊園 | 573.4 |
| 高砂一丁目児童遊園 | 863.9 |
| みんなのひろば児童遊園 | 475.0 |
| 鎌倉児童遊園 | 2,236.6 |
| 鎌倉北児童遊園 | 542.0 |
| かまくらいなり児童遊園 | 236.4 |
| 住吉第2子供広場 | 3015.3 |

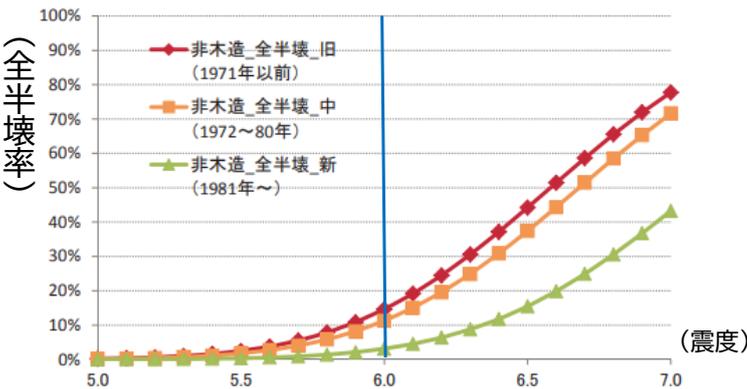
訓練用被害想定

■建物倒壊想定数

訓練用



図① 木造の建築年次別全半壊率曲線



図② 非木造の建築年次別全半壊率曲線

(出典：南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定（東京都）)



損傷割合 20%以上 30%未満 30%以上 40%未満 40%以上 50%未満 50%以上

| | 棟数 | 被害率 |
|------|--------|------|
| 全壊 | 560 | 5.5% |
| 半壊 | 662 | 6.6% |
| 建物総数 | 10,112 | — |

- ・ 築年数及び構造によって建物の全半壊率が変化
- ・ 以下の設定を全壊率曲線に入力し想定

条件設定

- ・ 震度6強（計測震度：6.0）
- ・ 建物の築年数の算出：
平成30年住宅・土地統計調査
住宅の構造等に関する集計/統計局
- ・ 建物の構造、棟数の算出：
令和3年度土地利用現況調査/東京都

■耐火性能について

参考

耐火性能・延焼抑制効果の向上

■耐火造

コンクリート造・レンガ造・構造を不燃材料で覆った鉄骨造



■準耐火造

構造を不燃材料で覆った木造・鉄骨造



■防火造

外壁や軒裏をモルタルや不燃材料で覆った木造

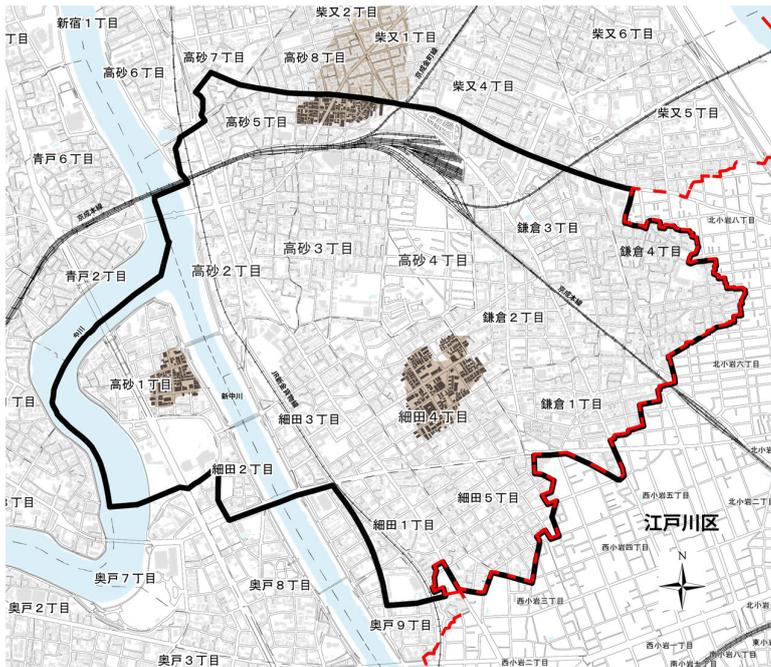


| 耐火性能 | 火災時の倒壊防止 | 周囲からの延焼 | 周囲への延焼 |
|------|----------|---------|--------|
| ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |
| ○ | ○ | ○ | ○ |
| △ | △ | ○ | △ |

※建築材料は目安であり、性能を満たしていれば、材料などは限定されません。

液状化被害

訓練用



| | 被害棟数 | 被害棟数率 |
|------|--------|-------|
| 地区内 | 424 | 4.1% |
| 建物総数 | 10,112 | — |

※建物被害は全壊には至らない、半壊程度が多数を占める。

- 液状化被害区域
- 液状化被害区域内建物

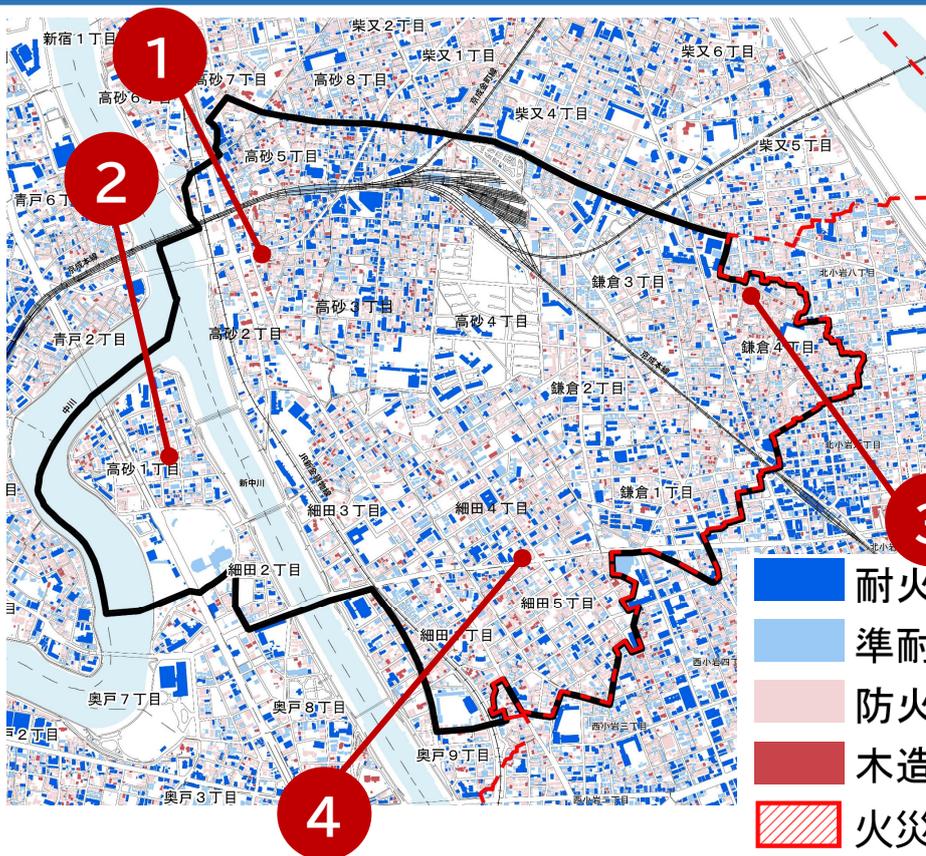
東日本大震災を参考に液状化被害区域内の建物(■)のうち6~7割が全半壊と想定

- 〈東日本大震災の事例〉
- 茨城県潮来市日の出地区 74%
- 茨城県神栖市深芝・平泉地区 64%
- 千葉県我孫子市布佐東部地区 63%

火災延焼シミュレーション

北風、風速8m/s

訓練用



- 耐火造
- 準耐火造
- 防火造
- 木造
- 火災延焼範囲

愛媛大学防災情報研究センター
火災延焼シミュレータをもとに作成

■火災延焼シミュレーション

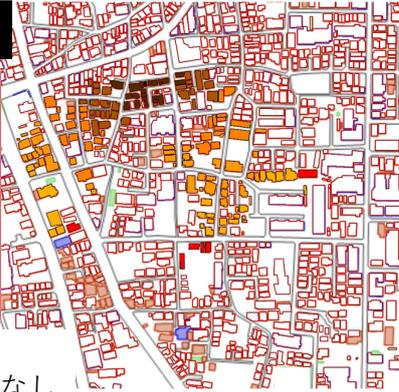
北風、風速8m/s

訓練用

延焼被害については、「無数の可能性のうちの一つ」です。
出火点、消火活動、風速・風向、近隣の建物構造（建替状況）で大きく異なります。

1班

道路が狭く、木造・防火造が多いことから延焼被害が発生した。耐火・準耐火造が点在し、まだら状の被害となっている。



2班

耐火・準耐火造が多く、延焼抑制につながっている。



建物の発火目安時間
0 1 2 3 炎上 影響なし



- 耐火造
- 準耐火造
- 防火造
- 木造



愛媛大学防災情報研究センター火災延焼シミュレータをもとに作成

■火災延焼シミュレーション

北風、風速8m/s

訓練用

延焼被害については、「無数の可能性のうちの一つ」です。
出火点、消火活動、風速・風向、近隣の建物構造（建替状況）で大きく異なります。

道路が狭く、木造・防火造が多いことから延焼被害が発生した。耐火・準耐火造が点在し、まだら状の被害となっている。

3班



4班

耐火・準耐火造が多く、公園が立地していることで、延焼抑制につながっている。



建物の発火目安時間
0 1 2 3 炎上 影響なし



- 耐火造
- 準耐火造
- 防火造
- 木造



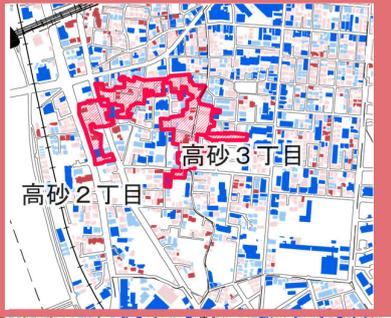
愛媛大学防災情報研究センター火災延焼シミュレータをもとに作成

延焼被害

愛媛大学防災情報研究センター
火災延焼シミュレータをもとに作成
北風、風速8m/s

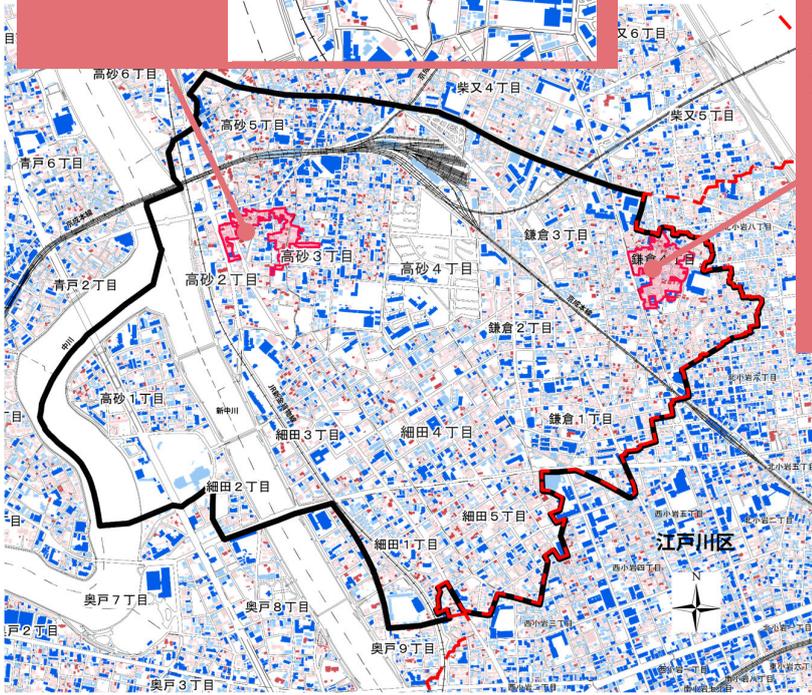
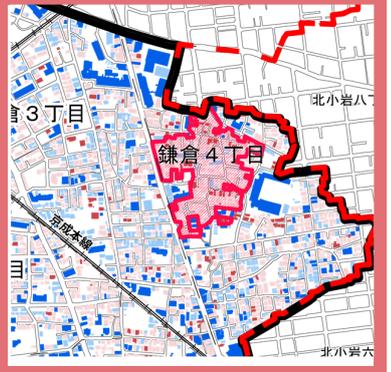
訓練用

高砂二丁目
焼失棟数
157件



| | 焼失棟数 | 被害棟数率 |
|------|--------|-------|
| 地区内 | 368 | 3.5% |
| 建物総数 | 10,112 | — |

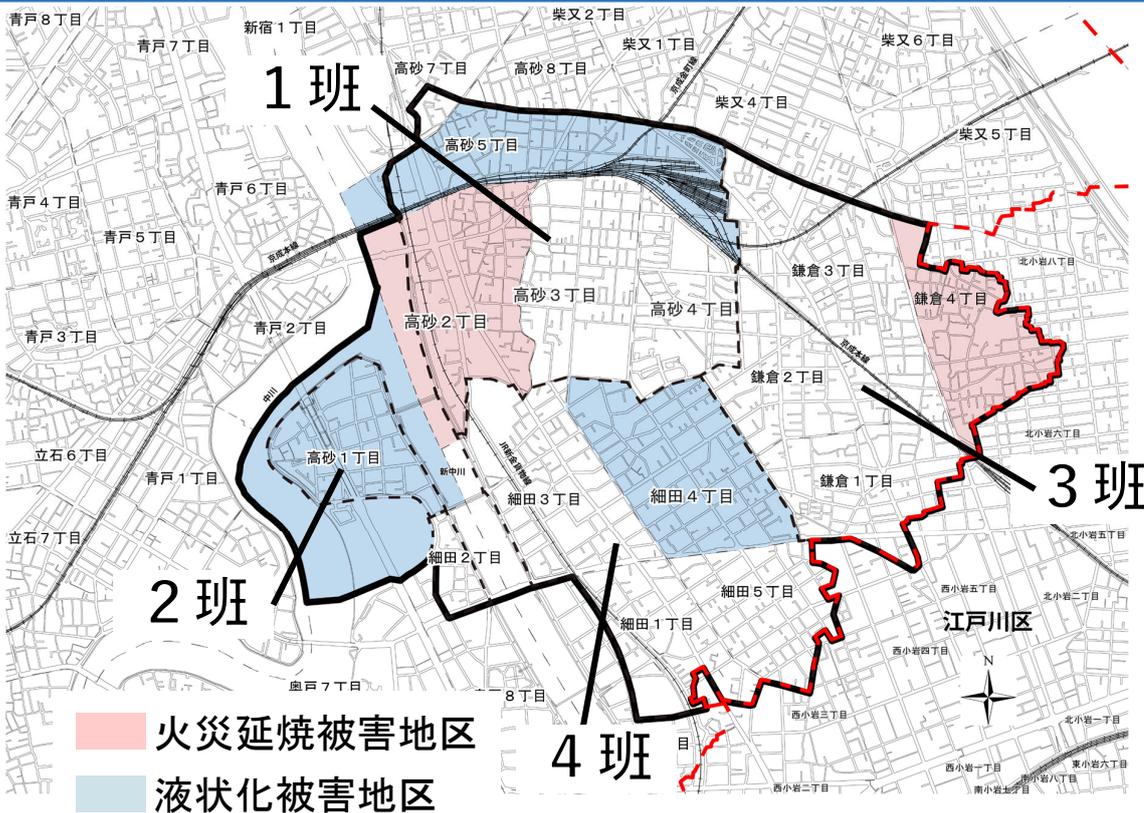
鎌倉四丁目
焼失棟数
206件



- 耐火造
- 準耐火造
- 防火造
- 木造
- 火災延焼範囲

被害状況図

訓練用



(4) グループワーク 〈被災後の『住まい』の復興を考える〉

被災後、皆さんは「どこで」「どのように」住宅を再建していきますか？
またその際に、お金はどのくらいかかる、と思いますか？
演習では、被災後の「住まい」の復興について考えていきましょう！



(1) 被災後はどのような調査をするの？

まちや家屋の被害を調べるための各種調査が行われます。

① 応急危険度判定（発災直後から10日程度）

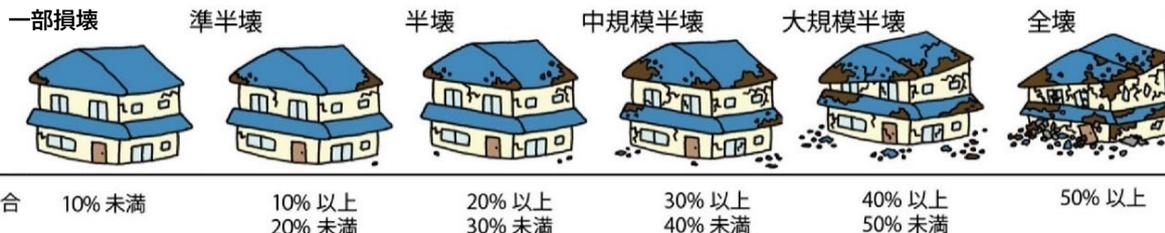
余震等による、建物の倒壊や窓ガラス落下等による二次災害を防止するため、建物の当面の使用可否について判定します。

自宅が無被害でも、周囲の状況によって「危険」と判定されることがあります。



② 住家被害認定調査（1週間から6か月程度）

区が住宅の被害の程度を認定し、罹災証明書を交付します。罹災証明書は、各種被災者支援制度を利用するために必要で、復興のパスポートとも言えます。



※住家の主要な構成要素の経済的被害が、住家全体に占める損害割合

③ 被災度区分判定（1か月から2か月程度）

建物を引き続き利用することが可能か、どのような補修・補強をしたら良いかを把握します。

建築物の所有者が専門家に依頼するものです！



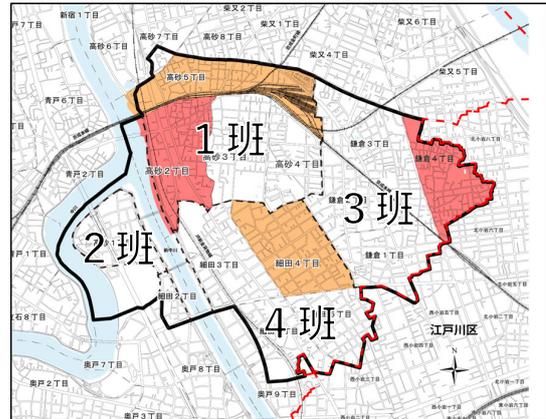
(1) 被災後はどのような調査をするの？

まちや家屋の被害を調べるための各種調査が行われます。

④ 被害区域調査（発災直後から1か月程度）

復興対象地区や建築制限を指定するため、家屋被害が集中する区域を把握します。

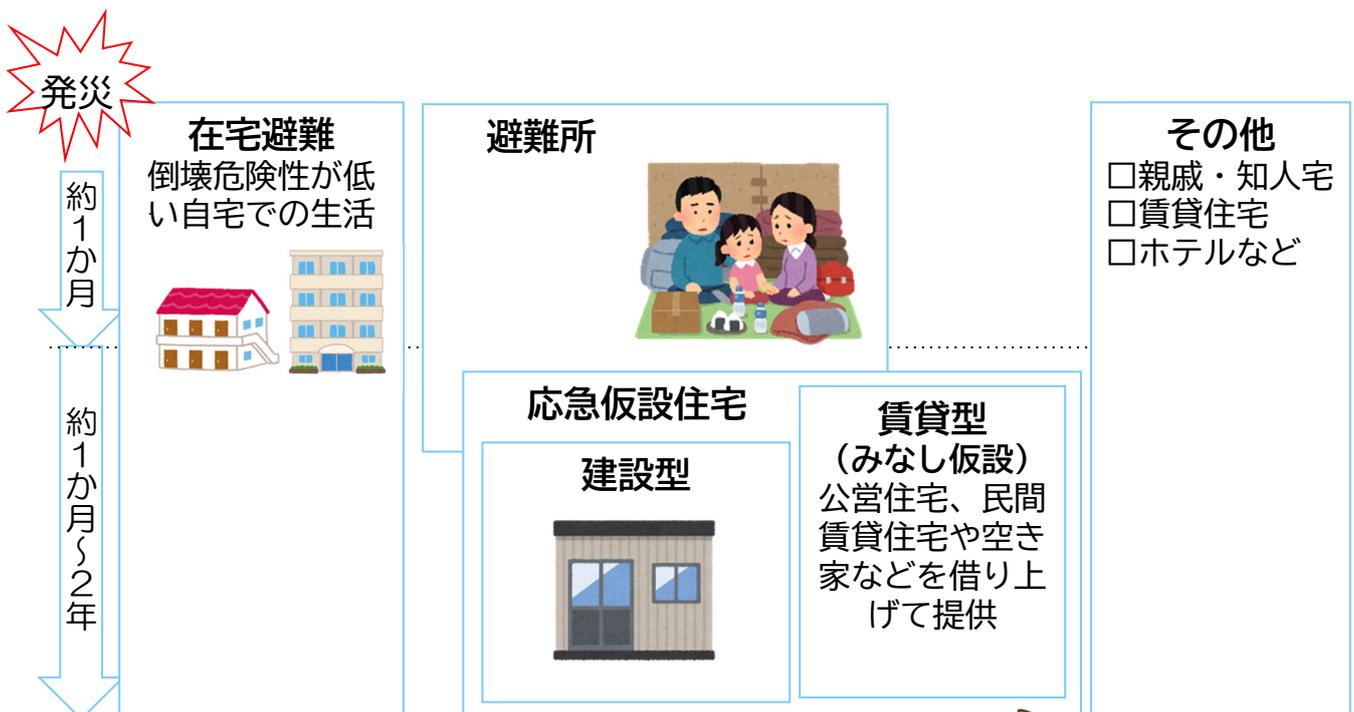
被害が大きい区域を調査し、どの地区で復興まちづくりが必要かを決めていきます。



| | 被害の状況 | 方向性 |
|-------|------------------|------------------|
| 大被害地区 | 約8割の建築物や道路等に被害 | 道路等の都市基盤施設を含めた整備 |
| 中被害地区 | 約5～8割の建築物や道路等に被害 | 部分的に都市基盤施設を整備 |
| 小被害地区 | 部分的に建築物等に被害 | 建築物等の更新を誘導 |

(2) 被災後はどこで生活するの？

被災後の生活の場となる仮住まいには、以下のような場所が考えられます。



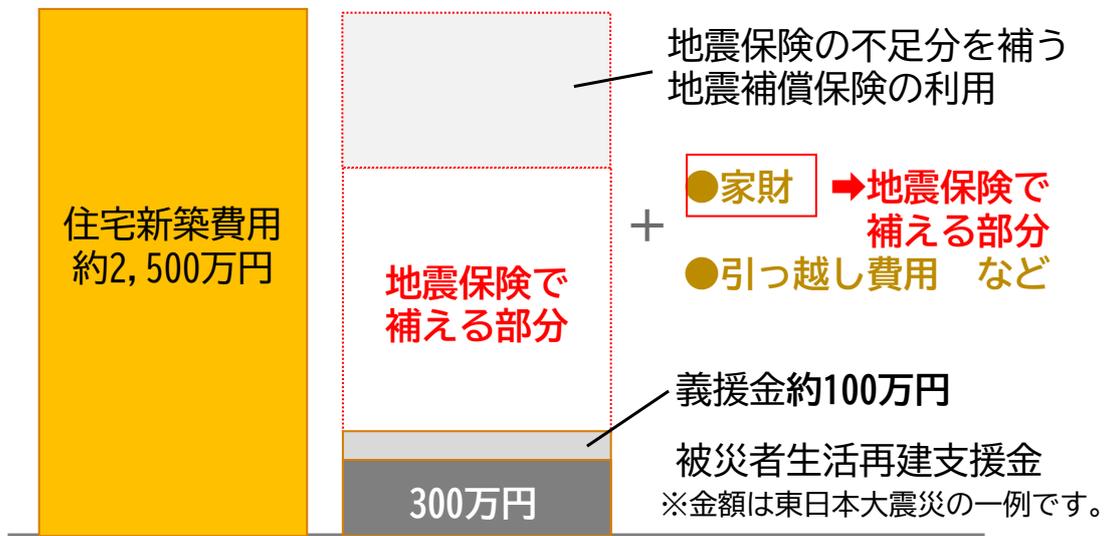
日常生活に必要な部分を緊急に修理する際、被災住宅の応急修理制度を利用できる場合があります！



(3) 住まいの再建にはどのくらいお金がかかるの？

被災した際の住宅の建て替えには多額の費用を要し、公的支援だけでは不足するため、災害保険の活用が不可欠です。

公助・共助で受け取れる金額（東日本大震災の戸建て住宅新築費用例）



内閣府「水害・地震から我が家を守る 保険・共済加入のすすめ」をもとに作成

火災保険では、「地震を原因とする損壊や延焼・拡大した損害」は補償されません。地震保険で補償されますが、一般的に火災保険とあわせた契約が必要です。詳細を確認のうえ、災害保険の加入や見直しを検討しましょう。



(4) すぐに住まいの再建ができるわけではないの？

住宅の建て替えは、すぐにできるわけではありません。大きな被害を受けた地区で、無秩序に従前の敷地に家を建て直してしまうと、もとの防災性の低いまちがそのまま再生されてしまうかもしれません。

災害に強いまちとして復興するため、区域を定めて、最長2年間、建築を制限することがあります。

例えば、

「木造平屋建て（地下なし）の建物しか建てることができない」

などの制限が一定期間かかる場合があります。



木造平屋建て
(地下なし)



コンクリート造
4階建て

演習：被災後の『住まい』の復興を考えよう！

あなたは高砂地区在住の東京さんです。

被災後、仮住まいや自宅の再建はどのようにしますか？またその選択をした理由は何ですか？

被災にあった想定で、被災後の住まいの復興を考えてみましょう！

| 東京 一郎 (58) | 1 班 | 東京 花子(57) | 2 班 | 東京 一子 (70) | 3 班 | 東京 太郎 (72) | 4 班 |
|---|--|--|---|---|---|---|---|
|  | <ul style="list-style-type: none">●世帯構成 父(83) 母(81) 妻(57) 長女(23)●地区内居住歴 58年●職業 生鮮食品店経営 (家族経営) |  | <ul style="list-style-type: none">●世帯構成 なし●地区内居住歴 30年●職業 会社員 |  | <ul style="list-style-type: none">●世帯構成 なし●地区内居住歴 40年●職業 無職 |  | <ul style="list-style-type: none">●世帯構成 妻(70)●地区内居住歴 72年●職業 無職(元 会社員) 町会・自治会長 |
| <ul style="list-style-type: none">●家計状況 ・世帯収入：500万円 ・預貯金：500万円●建物 店舗兼住宅(木造2階)築30年●居住地区 高砂2丁目●その他 長男(27)都内賃貸アパート(被害無) 震災で失業 | <ul style="list-style-type: none">●家計状況 ・世帯収入：500万円 ・預貯金：500万円 ・ローン残高：700万円●建物 分譲マンション(4階)築20年●居住地区 高砂1丁目●その他 父(83)・母(80) 新潟在住持家・戸建て(被害無) | <ul style="list-style-type: none">●家計状況 ・世帯収入：144万円(年金12万円/月) ・預貯金：200万円●建物 戸建て住宅(木造2階)築40年●居住地区 鎌倉4丁目●その他 長男夫婦 大阪在住持家・戸建て(被害無) | <ul style="list-style-type: none">●家計状況 ・世帯収入：300万円(年金25万円/月) ・預貯金：500万円●建物 戸建て住宅(木造2階)築40年●居住地区 細田4丁目●その他 長男夫婦世帯(都内在住)持ち家・戸建て(半壊) | | | | |

➡資料5
演習ワークシート①

(5) 発表

(6) 解説

復興まちづくり訓練の流れ

8/19(土)ガイダンス

復興について学ぶ

- 区の防災対策や訓練の概要をご説明します。
- 被災地での課題を理解し、地域協働復興・事前復興の重要性を学びます。
- 特別講演により「地域のまとまりが、早期の復興を促す～阪神・淡路大震災からの学び～」について、学びます。

10/7(土) 第1回

地域協働の重要性を学び、被災後の『住まい』の復興を考える

- 葛飾区の被害想定と地域協働復興の流れ、体制等について学びます。
- 被災者になりきって、生活再建や仮住まいの確保について、話し合います。



11/25(土) 第2回

被災後の『都市』の復興を考える

- 被害が予想される箇所や復興資源について、事前に区が点検した結果をもとに、高砂地区の復興で重要となる課題や資源を話し合います。
- 被災者になりきって、都市の復興や復興の方針について、話し合います。

1/27(土) 第3回

「高砂地区震災復興の進め方」をまとめよう

- 訓練のまとめとして「高砂地区震災復興の進め方」と「復興まちづくり計画」について、話し合います。
- 普段から、地域や行政等で取り組むまちづくりについて話し合います。

《次回の予定》



日時：11月25日（土）14:00～16:00

場所：高砂地区センター 3階ホール

内容：被災後の『都市』の復興を考える